

放射線リスクコミュニケーション

相談員支援センターだより

車座意見交換会の例

富岡町社会福祉協議会
施設見学型の車座意見交換会

富岡町社会福祉協議会では、地域での孤立・閉じこもり防止や健康・生きがいづくりを目的として、誰もが気軽に参加し楽しい仲間づくりや交流ができる「ふれあいサロン ゆうゆう倶楽部」を定期的で開催しています。今回、昨今のALPS処理水海洋放出により「福島県産水産物への放射線の影響が気になる」との相談を受けたことから、放射線リスクセンターでは上記サロンへの参加者6名を対象として、令和6年10月4日に福島県水産海洋研究センター（以下、海洋研究センター）の見学を通じた車座意見交換会を開催しました。同所での施設見学は、当センターが開催する施設見学型の車座意見交換会において今回が初めてとなります。

【海洋研究センターの見学について】

海洋研究センターでは、放射能研究をはじめ、震災以降から継続的に実施されている放射線モニタリング検査や魚介類の放射性物質濃度の調査等を通じて、県産魚介類の安全性に関する研究および情報発信に関する取り組みを行っています。海洋研究センターには、同所の概要や県産水産物の安心・安全に向けて行われている取り組み等について紹介する“公開講座”があり、施設見学に合わせて受講することができます。

公開講座では、同所で行われている一般的な海洋研究（水温や水産資源の動向調査、魚介類の加工技術の開発研究など）のほか、放射性セシウム濃度の測定や魚介類への放射性物質の影響、ALPS処理水海洋放出

の影響などについて、施設担当者による詳しい説明を聞くことができました。県における海産魚介類の放射線モニタリング検体数は全国の検体数の約半数以上を占めていることや、市場に流通するまでに県の公的検査に加え県漁連（福島県漁業協同組合連合会）による自主検査等の厳しい検査基準を経ていること、平成30年度以降から検体数の99%以上が不検出であることなど、県産水産物の安全性確保のための取り組みや現状について理解を深めることができました。



見学時の10月4日時点では福島県における出荷制限魚種はクロソイ1種のみでしたが、継続的なモニタリング調査の結果、10月18日に国の原子力災害対策本部は本県沖で漁獲されるクロソイの出荷制限を解除しました。これにより、福島県沖の水産物は全ての魚種が水揚げ可能となり、クロソイについては今年11月1日から水揚げが再開されています。

公開講座の受講後は、実際に海洋研究センター内の見学を行いました。同所内には3つの研究施設棟がありますが、今回は“放射能研究棟”及び“放射能飼育実験棟”を見学しました。放射能研究棟には、放射能研究に使用する魚介類や海水、海底土などの試料を処理する実験室や、複数の放射性物質を測定することができる装置が配備されていました。放射能飼育実験

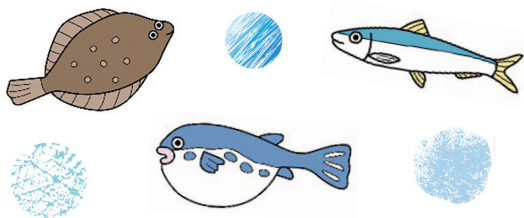
棟では、放射性物質の移行解明に関する調査として、ホシガレイの飼育実験が行われていました。ホシガレイは福島県の栽培漁業の対象種で、相馬市の水産資源研究所でも飼育しているため、比較的入手しやすい魚であるとのこと。実際に施設を見学することで、水産海洋研究センターでは放射能に関する様々な実験や分析を行うための設備が充実していること、また県産水産物における安全性確保に向けた多角的な視点での試験研究が行われていることが分かりました。



見学の様子（放射能飼育実験棟）

【意見交換について】

意見交換では、海洋研究センターの見学を通して、福島県産水産物へのイメージや放射線の影響に対して抱いていた疑問や不安はどう変化したか、などのテーマについて参加者同士で意見交換を行いました。参加者からは、「調査や研究の規模が非常に大きく、福島県の取り組みに大変感心した。」という声や、「県産水産物への放射線の影響等について聞きたかったことが、今回の説明の中に全て含まれていた。」「説明を聞いたことで、県産水産物や福島の海に対する不安が解消された。」等の前向きな意見が挙がりました。今回の施設見学によって、県産水産物の安心・安全に向けた取り組みに対する理解が深まり、放射線の影響に対する不安も少しずつ解消されていた印象でした。



参加者による意見交換の様子

専門家派遣、住民セミナーの例

WiZ国際情報工科大学 放射線教育

WiZ 国際情報工科大学には、放射線に関する専門学科である放射線工学科があり、将来的に放射線管理者や放射線関連のエンジニアといった、放射線分野でのスペシャリストを目指しています。今年1月に放射線リスクセンターの支援のもと、廃炉に向けた取り組みやALPS処理水について理解を深めるために福島第一原子力発電所（以下、福島第一原発）を見学しました。今回は、放射線工学科の学生5名を対象に、実際に放射線を取り扱う現場として、11月6日に福島第二原子力発電所（以下、福島第二原発）を見学しました。また、福島第二原発を見学するにあたり、10月10日、事前学習会に放射線の専門家を派遣し、講義を行いました。



事前学習会での講義の様子

【専門家派遣について】

10月10日に行われた事前学習会では、「福島第一原発事故の影響について」をテーマに講義を行いました。講義では、はじめに地震と津波の影響や原子炉内の状況等といった福島第一原発事故の要因について説明しました。当時の状況について改めて理解を深めるとともに、1月に実施した福島第一原発の見学についても振り返ることができました。また、福島第二原発見学の予習として、廃止措置の状況等について説明しました。



施設見学の様子

【福島第二原発の見学について】

福島第二原発の見学では、はじめに平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその後の福島第二原発の状況や廃止措置計画の概要について説明を受けました。廃止措置については、放射性物質の漏えい及び拡散防止対策や、放射線業務にあたる作業員の被ばく低減対策、事故や労災対策といった、数々の具体的な安全対策が講じられており、安全確保を最優先に廃炉作業が進められ

ていることを学びました。安全確保の観点において、学生から「福島第二原発で働いている方



の被ばく線量の基準はあ

るのか。」との質問があがり、これに対し施設担当者から「1年間で50mSvかつ5年間で100mSvという基準はあるが、主要な部分の解体が進んでいないため、実際には1年間で1mSvを超えない程度である。福島第二原発では1年間で1mSvを超えないことを目標として作業している。」との回答がありました。説明を受けた後は、施設担当者の案内のもと構内をまわり、原子炉建屋内部や緊急時の電源確保のため配備されているガスタービン発電機等を見学しました。また、制御室に立ち入ることもできました。

今回の事前学習会や原子力発電所の見学を通して学んだことを今後の学習の糧にして、日々の学業に励んでいただけると嬉しいです。

車座意見交換会の例

南相馬市社会福祉協議会 施設見学型の車座意見交換会

南相馬市社会福祉協議会（以下、南相馬市社協）では、業務の一つとして南相馬市にある復興公営住宅に住む避難者の支援を行っています。避難者は東日本大震災による津波被害や福島第一原発事故により、南相馬市小高区や浪江町、双葉町等から避難している方々です。高齢な方が多く、交通の便や体力的な問題から、地元に戻る機会が少なくなっている現状があります。

そこで、令和6年10月、復興公営住宅に住む避難者と周辺住民を対象とし、東日本大震災・原子力災害伝承館（以下、伝承館）や双葉地域の見学を通して地元で起きたことを振り返り、正しい知識と情報を得ることを目的とした車座意見交換会を開催しました。今回は牛越・上町団地合同、南町団地、北原団地の地域ごとに3回実施しました。



伝承館見学の様子



【東日本大震災・原子力災害伝承館の見学について】

伝承館では、東日本大震災の被害状況や福島第一原子力発電所事故に関する展示物等を見ることができます。参加者は、津波や原発事故後の南相馬市の状況が分かる映像等を熱心に見学していました。

また、企画展として、「福島と放射線～いま、あらためて知る放射線と災害」が開催されており、放射線の基礎知識や福島第一原子力発電所事故後の空間線量率、避難指示区域の変遷等について学ぶことができました。

【意見交換について】

伝承館見学後は、双葉町産業交流センターの会議室にて、専門家を交え、伝承館見学の感想や放射線について意見交換を行いました。それぞれの会で原子力安全研究協会の峯村明彦先生、松原昌平先生、山田孝一先生を講師に迎え、意見交換の中で出た質問に回答しました。参加者からは、「個人的には東日本大震災・原子力災害伝承館の見学に来ることができなかったため、良い機会だった。辛い気持ちを思い出したが、けじめもついた。」「県外の方を含め、多くの人に関心を持って訪れて欲しいと思った。」等の感想がありました。旬であるきのこの放射能濃度が気になるとの声も多数あり、食品中の放射性物質に関する基準値の解説や食品検査に関する案内がありました。



参加者による意見交換の様子

ファシリテーターを務めた南相馬市社協 避難者地域支援コーディネーターの千尋淳子氏を中心とし、和やかで話しやすい雰囲気の中、故郷への想いや放射線への不安や疑問について参加者間で共有する様子が見られました。



実働支援の例

葛尾村 線量測定

令和6年11月5日、葛尾村内で空間線量率の測定を行いました。この測定は、平成30年度に葛尾幼稚園、葛尾小学校、葛尾中学校が村内で再開してから、葛尾小学校の依頼により毎年実施しています。

測定場所は毎年同じポイントで、葛尾小学校、葛尾中学校、葛尾村民グラウンド等45か所です。測定には、NaIシンチレーション式サーベイメータを使用し、福島第一原発がある東側を向いて行います。



線量測定の様子

今回の測定結果は、 $0.08 \sim 0.33 \mu\text{Sv/h}$ でした。測定地点の空間線量率は健康に影響がある数値ではなく、安全に生活できる場所といえます。葛尾小学校の校舎では、現在、葛尾中学校の生徒も学校生活を送っています。幼稚園も隣接していることもあり、測定中も子供たちが元気に活動する様子が見られました。



放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.42

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6

いわきセンタービル5階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

